

(1) 算数単元テストふり返し学習

本日は稲田小の校内研修において「学びの共同体」の理論研修で講師を依頼された。私も依頼する。いつものことではあるが、「ついでに授業を拝見させてください。」私は訪問の前日に6年担任のT先生に「明日行くから5校時に授業を準備してくれ」とお願いした。これが私の流儀、講師依頼、訪問条件である。

何度この教室に足を運んだらうか、T先生と子ども達の創り出す心地よい空気に本日も癒される。この教室の学習環境、支え合い学び合う（息づかい、心づかい）風景は圧巻である。



いつ訪問しても下の写真の風景である。フロアは磨かれ、掲示物はただきれいではなく「大切にされている」ことを感じる。ロッカーや棚はつねに美しくに値する整然さである。何よりも教室に流れる空気が心地よい。私の突然の訪問にも、身構える様子や緊張感はなくとていいほど感じられない。当然、失礼もない。

訪問者に敬意を表し素敵な授業を準備することも人の心であるが、私は常に日常の授業が見たいと思っている。

『日常をやる。日常でやる。』見せるためのその場しのぎの授業は、子どもや教師に無理や苦痛を強いる時がある。・・・「いつ来てもいいですよ、私は日常こんな授業を心がけてやっています。」そんな授業視察にあこがれている。本日も私にとっては期待以上の「癒し」と「学び」を提供してくれた。

【単元テストのふり返し】 一番正答率の低かった問題を共有する。



T先生のスタイルがある。中央の間をうまく使っている。(空間のデザイン)

デジタルTVで確認したら、間髪入れずすぐに類似問題が下ろされた。『45秒は何分ですか?』

教師の第1声から、最初の共有課題まで約3分である。大げさな声も聞こえない。テンションも低く実に、淡々と進むのである。



あっさり授業が進む、課題を下ろした後は、左写真「分からない時は訊き合いなさい。」もうこの教室では聞こえない声である。子ども達が勝手に学び合っている。教師は椅子に座り遠目で子ども達の様子を見守る。(ケアを要する子はいない)

右写真、共有する。いろんな解答例が出される。4つのグループで3通りの解答例があった。数学的に合理的(早く、確実に)を追求しているのではない。「私だったらこうする。」の共有である。個にも差がある、自分に合ったやり方を見つけられたらそれでいい。





【次なる問題】

3  
一日は何時間ですか？  
4



あっさり次の問題へ行く。『訊き合う、聴き合う。』きき合うことに全く躊躇しない。一人残らずすべての仲間が「分きたい」に向かっている。すさまじい意欲である。対話の学びの質も高い。何よりもすごいのは、実に自然に当たり前やっていることである。



女の子が黒板前に出てきた。一人の男の子の「分からない」を受け止めて説明する仲間である。当然、みんなで見守る。



【ジャンプ課題】 秒単位まで換算して計算しなければならない。いわゆる、結構面倒くさい課題である。

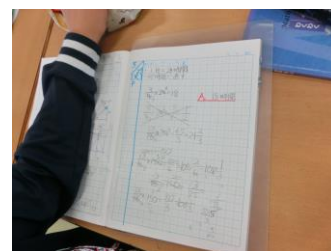
2時間30分の  $\frac{13}{18}$  は  
何時間何分何秒ですか。

簡単でない問題にやりがいがある。

一人でできるのであれば「学び」の必然性は生まれてこない。「分からない」「どうする」「これでいい？」「隣で訊いてこよう」解決のために、ちょっとした勘やひらめきを大切にする。すべてのグループ、一人残らずすべての仲間が「もがいて」いる。みんな夢中になって語り合っている。



「分からない」「なぜ」「でも…」の言葉が行き交う。やがて、秒に換算して計算しなければならないことが共有される。もちろん教師のヒントではない。教師が全くと言っていいほど目立たない教室である。教師は一定の距離を置いて子ども達を見守っている。…これが意外と難しいのです。



【共有する】 授業終末、それぞれができたところまでを共有した。



写真①



写真②



写真③

ほとんどのグループが6500秒のところまでたどり着いたが結論を出せたのは1グループであった。みんなちがうやり方である。だから共有する価値が生まれる。写真②③、仲間の発表に向けられる眼差しを見てほしいこれが『きき合う』学級である。

【微妙な距離感】 教師のポジションング … 今回は見守る教師の立ち位置です。



写真④



写真⑤

この2枚の写真どう思います？  
写真④、仲間できき合っている様子を後ろから見て（覗い）いるところです。普通の教師だとすぐに入っていくそうです「先生は決して入りません。…なぜ？」  
写真⑤、発表者を見ている仲間を観察しています。…これも「なぜ？」ですね。授業者の行為には必ず意図がある。

「先生ありがとうございました。素敵な子ども達です、ほんとに素敵に支え合う関係の子ども達です。当然、教師の一人ひとりの子ども達との関係がよいからできるのです。学び合う対話の質の高さにも脱帽です。

「学びの共同体」に手をあげて2年目、羽地中に行った6年生も、しっかり他校の生徒を交えて学び合っていました。ご安心ください。お願いです、新任の先生方の不安や疑念もしっかりみんなで共有し、互いに高め合い支え合う教師集団に向かってください。『できた、できなかったではありません。』みんなで同じ方向へ向かって行けたかどうかです。・・・あせらずゆっくりでいいのです。 国頭学びの会ゆい